

# 令和3年度大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動

大仙市教育委員会

## 協和地域の歴史を訪ねて ～協和地域学校協働活動の取組～

協和中学校では1年生の総合の学習で、滝沢清寿協和地域学校協働活動推進員のガイドで協和地域の史跡を訪ねる学習を初めて行いました。

コースは、事前に滝沢推進員が学校と打ち合わせや学習を行い、当日は二台のバスで荒川鉦山跡、小種の戊辰戦争公園等を巡りました。

生徒たちは、地元に住んでいながら、皆初めて訪問するところがほとんどで、日本の歴史につながる史跡が地元にあることを知り、驚きとともに直接触れる機会となりました。荒川鉦山跡では近くに住む鈴木さんがパネルを持ち込んで生徒の学習をサポートしてくれました。

生徒たちは、この活動を契機に、自分の興味や関心をもったことを探究する学習に取り組みました。生徒の感想には「今まで知らなかった事や、行った事のない所へ行って色々な事を知ることができた。...これからも協和の事をたくさん知り、しっかりと勉強をしていきたい。」

協和公民館では、この活動を参考に公民館事業として、一般の大人向けのフィールドワークを企画しました。



## 太田地域の伝統・文化にふれる ～太田地域学校協働活動の取組～

太田地域では、「太田の伝統・文化」を子供たちに伝えたいという地域の方々の思いを感じました。

太田北小学校では、推進員の鈴木さんの紹介で初めて「国見ささら」を全校で鑑賞しました。ささらの一員として活躍する6年生もいましたが、「国見ささら」は祭日しか披露されないことから、見たこともない子供たちもいました。改めて地域に伝わる伝統文化に触れる貴重な機会となりました。

太田南小では3・4年生が「横沢の曲がりネギの栽培と収穫」体験をしており、収穫作業は4年生が指導者の長澤さんをはじめ地域の方々と一緒に取り組みました。曲がりネギは栽培から収穫まで2年かかり、手がかかることから栽培農家さんは地域で2軒ほどになっているそうです。子供たちがこの体験を通じて地域に伝わる伝統野菜について理解を深め、継承まで繋がってくれることを願ってやみません。

太田東小では、4年～6年生が稲刈りを行いました。刈り取った稲を結ぶところは地域の方から丁寧に教えていただき、皆充実した表情が印象的でした。子供の感想には、体験を通して米づくりの大変さと、日常の管理等たくさんのサポートしていただいたことへの感謝が多く述べられていました。また、6年生は継続したこの活動で鎌の使い方が上達したことも実感していました。

全ての活動に学校・公民館・地域がうまく連携し機能していることを感じました。





# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 3

## 南外の良さに気づき、チャレンジ ～南外地域学校協働活動の取組～

南外中2年生は地域活性化推進室との協働で、グループごとに仮想の会社を立ち上げ、南外中で作った野菜等、身近な材料をもとに商品開発・販売を目指しました。支所長や公民館長、学校評議員の方々をゲストに生徒全員がそれぞれの立ち上げた会社の役職の立場で発表や質疑応答を行いました。グループで考案した内容を見事に、そして堂々と発表する生徒の姿の成長に感動していたのが、学校評議員の方々と校長先生でした。学校では、地域の皆さんから協力を得ながら、商品販売～決算報告までを生徒自らが取り組みます。

南外小学校では、学校前の田んぼで全校で稲刈りでした。武藤推進員を中心に、たくさん集まってきてくれた地域の方々の支援で、1年生から6年生まで縦割りグループで一生懸命に協力して約1時間ほどで活動を終わりました。地域の方々と児童が談笑する場面もあり、活動を通して地域の方々と触れ合う時間ともなっていました。最後に、南外小児童全員で地域の方々へのエールパフォーマンスが地域の元気づくりに大きく響いてきました。南外の良さ（人や自然・産業等）に子供たちが気づいた活動でした。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 4

## 地域ので体験を通して学ぶ ～仙北地域学校協働活動の取組～

夏休みに放課後児童クラブへの出前講座として横堀・高梨小学校の協力を得て、推進員を中心に二つの児童クラブで夏休み出前講座を行いました。横堀児童クラブでは、学校の体育館での昔遊びに挑戦しましたが、竹馬が子どもたちの一番人気で、何度も挑戦する姿が見られました。けん玉やこま、ヨーヨー、メンコでは遊び方を教えてもらい、子どもたち同士でも上手にできるコツを教えあったりして楽しんでいました。教室ではお手玉、おはじき、あやとりなどを行いましたが、高学年の児童が低学年の児童にあやとりの糸のとり方を、やさしく教えてあげる様子も見られ、終わりの会では、「竹馬できるようになった」と嬉しそうにお話をしてくれた児童もいました。

高梨ひまわりクラブでは、二つのグループに分かれて、石ころアートと風船ハープを作りました。石ころアートでは石の形をおむすびやメダルに見立てて絵を描く子どもや、好きなキャラクターや家族の顔など自分の好きな絵を描く活動です。風船ハープでは、風船に空気を入れたあとの結びがなかなかできずに戸惑う様子もありましたが、ほとんどの子供たちは自分で作ることができました。輪ゴムを張った風船ハープの音色とともに子供たちの歓声が響いた活動となりました。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 5

## 地域の自然の不思議を発見 ～神岡地域学校協働活動の取組～

神岡地域は神岡小が早くから地域とともにある学校として、特色ある活動に取り組んできています。地域に詳しい鈴木三郎推進員は学校だけでなく公民館にとってもなくてはならない存在となっています。

今回は、平和中学校1年生の総合の学習で、学校近くの大浦沼を題材に、事前学習と実地学習に取り組みました。菅江真澄の紀行文にも取り上げられている「きつね結び」はヨシの変った形について、鈴木推進員作成のビデオを視聴しながら学習したほか、さらに、大浦沼で見られる「浮島」について写真データ等を見ながら学習しました。実際に徒歩で現地へ移動すると生徒は次々と「きつね結び」を見つけ、歓声が上がりました。浮島についても、その大きさに驚きながら、身近にある地元の自然の不思議に関心を寄せていました。生徒たちは、学校の近くに天然記念物に負けないぐらいの浮島あることに気づき、さらに観察を続けながら他の地域の自然環境に目を向けたいとの感想がありました。

平和中では今回の学習を機会に公民館に協力をいただき、書道の時間に高齢者大学の方を支援ボランティアとしてお願いするなど、活動の幅が広がってきています。





# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 6

## 新生「豊成小」を地域が一体となって ～中仙地域学校協働活動の取組～

“豊成秋田米”の収穫の活動は全校で収穫作業を予定していましたが、コロナ禍を踏まえ、4・5年生での作業となりました。子どもたちは、鎌で稲を刈り取る人、刈り取った稲をコンバインの脱穀機に運ぶ人に分かれて、作業を進めました。収穫の喜びが子どもの作業の様子や振り返りの感想から感じられました。5年生は今後、収穫したお米を用いて食べ物づくりにもチャレンジする予定のようです。活動は、鈴木・高橋の二人の推進員を中心に地域の方々やJAおばこ、長楽寺農村公園保存会等多くの方々から支援をしていただきました。子供たちの感想では、こんなに苦労して育てたお米を自分たちは食べているので、一粒一粒を大切にしっかりと食べたいと思ったことや、お米をつくる人への感謝が述べられていました。

豊成小は統合1年目、豊川・豊岡の二つの地域の方々も二人の推進員からの声かけて参加していただきました。このような活動を通して、地域の学校としての歩みを広げてほしいと願います。三種類の学校ジャージで活動しながら、地域の方々の声かけを受け、生き生きと活動している姿が印象的でした。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 7

## 地域の課題に共に取り組む

### ～西仙北地域学校協働活動の取組～

西仙北地域活性化のプロジェクトとして、国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」の綱作りに必要な稲わらの確保と、その農業体験を通して幼・保・小・中・高が一体となって活動する「大綱米プロジェクト」の田植えを行いました。活動はあいにくの雨の中でしたが西仙北小5年生・西仙北中3年生・西仙北高校全員で元気に田植えを行いました。途中、西仙あおぞらこども園とみつば保育園の園児も応援に駆け付けました。

子供たちの活動を見守った保存会の今野会長さんは、「これをきっかけに大綱引きに興味を持ってもらい、将来刈和野の伝統を背負う存在になってほしい」と期待を込めていました。刈り取り作業は、稲わら確保の目的もあることから手で刈り取り、はさ掛け作業を行う予定でしたが、コロナの感染拡大を受け、残念ながら子供たちの活動は中止となってしまいました。後日、収穫したお米と稲わらを各学校へ贈呈されましたが、齊藤公民館長からは、刈和野大綱米にこめられた想いについても話があり、改めて地域の伝統行事である「刈和野の大綱引き」への期待が高まったようです。

西仙北地域学校協働本部では、このほか今年度、学校・推進員・公民館の人脈を活用し、公民館が事務局として、現在「地域人材バンク」の整備を進め、充実した地域学校協働活動に向けて取り組んでいるところです。



# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 8

## 教員の多忙化解消への一歩 ～大曲地域学校協働活動の取組～

大曲中学校では1年生の総合の学習の一環として、大曲の伝統文化・産業・くらし・観光・自然環境の5つの分野について、ゲストティーチャーを招き、講演会を開催しました。講師は、「大曲昭和55年会」「大仙市花火産業推進課」「大仙市社会福祉協議会」「大仙市観光物産協会」「大仙市総合防災課」の皆さんでした。講師の紹介は、今回全て丸谷推進員が学校のニーズに合わせてそれぞれの講師と連絡・調整し、実施することができました。どの分野の講師の方も丁寧に資料を作成し、わかりやすく話をしてくださっていました。1年生は今後、この講演を生かしながら個人テーマを設定し、フィールドワークに向かう予定です。

花館小学校では、地区民運動会との合同運動会がコロナ感染拡大を受けて中止となりましたが、学校単独での記録会として開催しました。ライン引きやテント立て、ゴール審判など、運営の裏方は齊藤靖推進員と花館スポーツ振興会の役員や公民館職員が行い、スムーズに行うことができました。地区民運動会は中止となっても地域が支えながら実施できていました。

これらの協働活動は学校の教員の多忙化解消や負担を減らす取組としても注目されます。





# 大仙市各地域の特色ある地域学校協働活動 9

## 地域を元気に

### ～大曲西地域学校協働活動の取組～

大曲西中学校では、山崎浩推進員が中心になって、学校花壇の整備を進めています。学校祭で訪れる多くの地域の方々が毎年楽しみにしていると伺いました。山崎推進員は、この他農業を中心とした職場体験学習にも関わり、生徒の豊かな学習活動に積極的に関わっています。

大川西根小学校の特色ある活動の一つである全校オーケストラは、年に1回に地域の方々に披露する場が「楽器まつり」です。披露する全校オーケストラの活動で、高橋千春推進員が関わっています。全校での音楽ですので、バイオリンやチェロ、コントラバス等の弦楽器など楽器のチューニングは大変です。高学年の児童はそれなりに行っていますが、その楽器のクセもあり、難儀している子供もいました。高橋推進員が、市内で弦楽器を演奏している方々に声をかけて、子供たちの活動へ協力をお願いし、安心して子供たちが演奏に取り組んでいました。演奏が難しい部分などは専門家のアドバイスを受け、子供たちも一生懸命に取り組んでいました。

地域の方々に楽しんでもらえるように一生懸命取り組んでいる生徒・児童たちでした。



## 地域の文化を地域と一緒に支える ～大曲南地域学校協働活動の取組～

大曲南中学校では、学校祭で披露する市無形民俗文化財である「角間川盆踊り」の学習を角間川盆踊り保存会の皆さんにおいていただき、全校生徒で行いました。生徒たちは自然に合いの手を発声するなど、地域の伝統である踊りや演奏を継承していこうという気概があふれていました。出身小学校によって、盆踊りの取り組み具合に差があるのかと思っていましたが、藤木小出身・角間川小出身どちらの生徒も同じように上手に活動ができていました。藤木小でも「角間川の盆踊り」については、3年前から総合の時間に保存会の皆様から協力をいただき、踊りはもちろん、笛や太鼓まで学習しているとのことでした。

今年度はさらに、盆踊りを体験するだけでなく、その歴史や背景、盆踊りを伝承している方々の思いにも触れ、黒田推進員のコーディネートのもと生徒たちは保存会の皆さんと熱心に学習に取り組んでいました。双方の意欲や関心がさらに高まる活動だと感じました。

角間川小学校では、5年生のコメ作り活動に野本推進員が調整役となって地域の農業法人やJA等の協力を得て取り組んでいます。秋晴れの中で行われた稲刈りは、作業が進むにつれ子供たちの鎌使いがうまくなっていました。地域の方の温かさに触れる活動となりました。

